

井郡小針今白山村田地の字に遺れり、小針と云ふは後世の轉誤なり、山田郡尾張戸神名式に尾張戸神社とあり是也社俗に當國明神と稱し其社地を當國山といふも是尾張山といふ意也此地今は水野村にり和名抄に信濃國水内郡尾張とあるを平波利倍と註せるは此處の同例部は群の意にて、をさして丹羽郡二宮村なる尾張字今田地のなりなどいふ地は並尾張氏の住居たる事あきらけしいふ名也、し時代の新古あり山田郡なる小針は神護景雲の比なる事續紀に見えて上に引る如く二宮なる尾張はや、後に左衛門尉尾張俊村同俊秀等や住けむとおもふよしあり、そは寛元の頃にて、假名を重松といへり、今二宮神主重松と稱するは、この同族の子孫なるべし。

〔鹽尻二十一〕一謹按尾張國列東海道東海名出日本紀景第三云古昔神武天皇東征之日天種子命

命天兒屋根云々討海部佩室臣定國見延長風土記成務天皇五年以小豐命天火明命十世孫尾張連電號上ニ爲國造後世國縣邑各置稻置後世郡同分郡縣定邑里八郡盡自此尾張氏世爲國造天武天皇御宇以小子部連鉏鉤任守

府本在中島郡 今郡有國衙庄松下村即司館舊跡而俗呼曰國衙島

守介等館於此治致施教後鳥羽院御宇前右大將源賴朝及爲都元帥請命別置守護一人以並司執國務後世武臣自立不待官命而私領郡鄉如斯波氏織田氏數家

斯波氏領國之際遷候官於同郡清洲今爲春建城武衛源義統之時其臣織田彦五郎某弒義統奪

清洲城自此織田氏專國後贈相國信長住于此其子前內大臣信雄又居此然前關白豐臣秀次領之後福島左金吾正則領焉後陽成院慶長五年東照神君封從三位前左近衛權中將源忠吉卿候官清洲城同十二年前權大納言御諱茂直襲封築大城於愛智郡那古屋庄遷于候官初今川左

馬助源氏豐築之織田備後守平信秀奪之天文年中信長居之後使林佐渡守監之然後平岩主計頭弓削朝臣親吉領之至此敬公始居焉先此神君幼子千君來尾州爲平岩氏之嗣然慶長五年庚子三月七日早世也號高岳院

〔先代舊事本紀十造〕尾張國造